

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：32615

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01481

研究課題名（和文）宗教をめぐる政治理論の新たな課題と構想：リベラリズムとデモクラシーの再検討

研究課題名（英文）Religion, Liberalism, and Democracy: New Challenges and Perspectives

研究代表者

木部 尚志（Kibe, Takashi）

国際基督教大学・教養学部・教授

研究者番号：10310327

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究プロジェクトの目的は、以下の2つの問いに取り組んだ。ひとつは、世俗化論、世俗主義論、および宗教概念を批判的に吟味する視点からみた場合、西洋および非西洋における政治的近代に関する従来の歴史理解がどのような修正を迫られ、どのような近代像が生まれるのか、という歴史的理解をめぐる問いであり、いまひとつは、政治理論がそうした視点に依拠する場合、宗教をめぐる種々の問題に対応し、解決に寄与するために、どのような原理と枠組みを提供しうるのか、という規範的問いである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第1の意義は、研究上の意義に関わる。それは世俗化論、世俗主義論、宗教概念を批判的に検討している最近の学問的動向を鑑みて、政治と宗教の関係をめぐる近代的理解の再検討をおこなった点にある。第2の意義は、社会的貢献にも関わるもので、従来の研究が主に欧米を対象としてきたのに対して、欧米と日本の事例の双方を対象とし、相互の事例の比較検討をおこなった点にある。

研究成果の概要（英文）：This project addresses two questions. The first question is historical: How is the common understanding about Western and non-Western political modernity changed, if we critically examine theories of secularization, secularism, and religion? The second question is theoretical and normative: What principles and frameworks emerge on the basis of the above critical considerations about modernity?

研究分野：政治思想

キーワード：政治 宗教 世俗化 世俗主義 政治思想

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、政治と宗教をめぐる問題に対する学問的関心の急激な高まりが、政治理論、宗教学、社会学、哲学、倫理学、神学などの様々な学問分野において、明確に見られるようになったことが、本研究プロジェクトの主たる背景となっている。この新たな傾向を生み出す社会的な要因となったのは、グローバルな現象として認められる「宗教の復興」の出現、さらには種々の宗教におけるファンダメンタリズムの興隆および政治的急進化、移民の増加による宗教的多様化の進展という問題であった。こうした状況のなか、政治と宗教のあいだの関係はどのようなものであるのか、という事実問題とともに、そうした関係はどのようなものであるべきなのか、という規範問題をめぐる議論が、種々の学問分野で活発に展開されつつある。本研究にとってとりわけ重要な学術的背景となる研究動向は、(a) 宗教概念の再検討と(b) 世俗化論および世俗主義論の再検討の2つであった。

2. 研究の目的

本研究プロジェクトの目的は、以下の2つの問いに取り組んだ。ひとつは、世俗化論、世俗主義論、および宗教概念を批判的に吟味する視点からみた場合、西洋および非西洋における政治的近代に関する従来の歴史理解がどのような修正を迫られ、どのような近代像が生まれるのか、という歴史的理解をめぐる問いであり、いまひとつは、政治理論がそうした視点に依拠する場合、宗教をめぐる種々の問題に対応し、解決に寄与するために、どのような原理と枠組みを提供しうるのか、という規範的問いである。

3. 研究の方法

共同研究プロジェクトを進める具体的な方法は、2つのステップから構成された。第1のステップでは、6名から構成される研究グループを2つに分けて、歴史的な理解に関わる第1の問いと理論的考察に関わる第2の問いのいずれかを課題として取り組むことにした。第2のステップは、それぞれの問いの探求からもたらされる成果を総合的な観点から共同で検討して、その理論的な含意を明らかにすることを目指した。各研究者は、担当する問いに関わる個別研究課題を探索し、欧米と日本のいずれかを主たる事例とする。研究の進め方としては、年に1回ないし2回、報告と討議の機会を設けた。2019年度は、各研究分担者の研究計画に関わる文献を渉猟する基礎的作業を中心に進め、その成果を2020年3月23日の研究会で確認した。2020年度は、残念なことにコロナ禍の影響で計画していた海外招聘が実現しなかったものの、プロジェクト参加メンバーが、それぞれの個別的な研究課題の取り組みを進めた。当該年度の成果として特筆すべきは、国際基督教大学キリスト教と文化研究所主催のシンポジウム「近代とキリスト教：チャールズ・テイラー『世俗の時代』」(2021年2月20日)にて、本プロジェクトのメンバー3名が基調講演者および討論者として参加し、他のメンバーもオンラインによって参加した。2021年度は、研究会を3回おこなうことができた。第1回研究会は、9月3日にオンラインで開催し、L.ジョーム教授(パリ政治学院)による発表と、S.パク教授(ソウル国立大学)も含めたディスカッションを行った。第2回研究会は、11月28日にオンラインで開催し、研究メンバー2名(宇野、千野)が発表し、続いてディスカッションをおこなった。第3回研究会は、3月10日にオンラインで開催し、研究メンバー2名(千葉、荻部)が発表し、ディスカッションをおこなった。2022年度は研究成果を生み出す作業に注力し、一定の研究成果を生み出すことができた。コロナの影響もあり、本来の計画からをさらに1年、補助事業期間の延長を申請することになり、2023年度も研究を継続し、結果として十分な成果を、研究代表者と研究分担者ともにあげることができた。

4. 研究成果

本プロジェクトは、歴史的な理解に関わる第1の問いと理論的考察に関わる第2の問いを課題として取り組み、十分な成果を挙げているといえる。ただし、それぞれの問いの探求からもたらされる成果を総合的な観点から共同で検討して、その理論的な含意を明らかにする課題は、不十分であり、後継の研究プロジェクトで追求する必要がある。

2019年度の成果：単著では荻部直『基点としての戦後——政治思想史と現代』(千倉書房、2020年)、共編著では Takashi Kibe, *Religion and Nationalism in Asia* (Routledge, 2019)、論文では木部尚志 “Civilization, Morality, and Pluralism: A Straussian Perspective on Japanese Modernity” (J. Kwak and S. Park (eds.), *Leo Strauss in Northeast Asia*. Routledge, 2019)、宇野重規「政治思想史における危機対応—古代ギリシアから現代まで」『危機対応の社会科学・上』(2019年)および千野貴裕 “Gramsci's critique of Croce on the Catholic Church” (*History of European Ideas*, vol. 46) が挙げられ

る。

2020年度の成果：共編著では苅部直『日本思想史事典』（丸善出版、2020年）、論文では木部尚志「宗教」（『ハーバーマスを読む』ナカニシヤ出版、2020年）、同上“*Myth-Making and Benevolent Politics in Japanese Political Modernity: Inoue Kowashi on the Statecraft of Political Myth*” (*History of Political Thought*, vol. 41 (3), 2020), 千葉眞「南原繁における『宗教と政治』：ナチズム批判と価値並行論を中心に」（『思想』2020年12月号）、宇野重規「松本礼二・丸山眞男・トクヴィル」『比較文化』第16巻（2021年）が挙げられる。

2021年度の成果：『思想』の「チャールズテイラー特集号」（2022年、1173号）に4名が寄稿したことが挙げられる（千葉眞「テイラーの世俗化の一断面」、宇野重規「政治哲学と『世俗化』論」、木部尚志「テイラーの世俗主義論」、高田宏史「テイラーの政治理論と実在論」）。さらに研究実績として、前田勉・苅部直編『日本思想史の現在と未来』（ペリカン社、2021年）、宇野重規「松本礼二・丸山眞男・トクヴィル」（『比較文化』2021年）、千野貴裕「グラムシアン・モーメント」（『思想』2021年、1165号）、千葉眞「内村鑑三と無教会の信仰の型について」（『内村鑑三研究』、2021年、第54号）、千野貴裕“*The Modern State and Future society: Gramsci's Two Conceptions of the 'Ethical State'*” (*The European Legacy*, vol. 27) が挙げられる。

2022年度の成果：千葉眞「チャールズ・テイラーの「宗教と世俗」論」（『思想』第1179号）、苅部直「十九世紀の日本と「文明」の知」（『Voice』通巻543号）、宇野重規「南原政治哲学における学問的射程とその意義」（南原繁研究会編『南原繁における学問と政治』）、木部尚志“*The Prince between Confucianism and Machiavellianism: Inoue Kowashi on Statecraft and Political Morality*” (Jun-Hyeok Kwak (ed.), *Machiavelli in Northeast Asia*. Routledge, 2022)、千野貴裕“*The Modern State and Future Society: Gramsci's Two Conceptions of the "Ethical State"*” (*The European Legacy*, vol. 27)、単著の成果として宇野重規『日本の保守とリベラル』（中央公論社）および同著者『近代日本の「知」を考える』（ミネルヴァ書房）が挙げられる。

2023年度の成果：木部尚志“*The Shackles of Universal History and the Road Not Taken*” (*Journal of Social and Political Philosophy*, 2023)、苅部直『宗教・抗争・政治－主権国家の始原と現在』（共編著、千倉書房、2023年）、宇野重規『フランス知と戦後日本－対比思想史の試み』（共編著、白水社、2024年）、千野貴裕“*Book Review: Antonio Gramsci: An Intellectual Biography, by Gianni Fresu, London*” (*History of European Ideas*, vol. 50) が挙げられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計26件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 木部尚志	4. 巻 2 (1)
2. 論文標題 "The Shackles of Universal History and the Road Not Taken: 'Ambivalent Possibilities' in Maruyama Masao's Thought"	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Social and Political Philosophy	6. 最初と最後の頁 45-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 千野貴裕	4. 巻 (27)2
2. 論文標題 "The Modern State and Future Society: Gramsci's Two Conceptions of the "Ethical State"	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The European Legacy	6. 最初と最後の頁 125-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10848770.2021.2001888" ¥t "_blank	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 千葉真	4. 巻 1179
2. 論文標題 チャールズ・テイラーの「宗教と世俗」論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 22-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 苅部直	4. 巻 543
2. 論文標題 十九世紀の日本と「文明」の知	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Voice	6. 最初と最後の頁 68-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇野重規	4. 巻 1
2. 論文標題 南原政治哲学における学問的射程とその意義	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 南原繁研究会編『南原繁における学問と政治』	6. 最初と最後の頁 3-32頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千葉眞	4. 巻 54号
2. 論文標題 内村鑑三と無教会の信仰の型について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 内村鑑三研究	6. 最初と最後の頁 3-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千葉眞	4. 巻 1173号
2. 論文標題 テイラーの世俗化の一断面ー排他的人間主義の出現、交差圧力、宗教的暴力 vs. アガペーを中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 63-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木部尚志	4. 巻 1173号
2. 論文標題 テイラーの世俗主義論：ハーバーマスの批判的対話	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 101-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇野重規	4. 巻 1173号
2. 論文標題 宇野重規2021 「政治哲学と「世俗化」論－マルセル・ゴージェと チャールズ・テイラー」、『思想』、 第1137号、84-100頁、査読無	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 84-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田宏史	4. 巻 1173号
2. 論文標題 テイラーの政治理論と実在論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 117-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 苅部直	4. 巻 192
2. 論文標題 「天」をめぐる――小林秀雄と福沢諭吉	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福澤手帖	6. 最初と最後の頁 6-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田宏史	4. 巻 1166
2. 論文標題 パーリンとテイラー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 127-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takashi Kibe	4. 巻 41
2. 論文標題 Myth-Making and Benevolent Politics in Japanese Political Modernity: Inoue Kowashi on the Statecraft of Political Myth	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 History of Political Thought	6. 最初と最後の頁 464-486
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木部尚志	4. 巻 1
2. 論文標題 宗教	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 田村哲樹、加藤哲理編『ハーバースマスを読む』、ナカニシヤ出版	6. 最初と最後の頁 103-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木部尚志	4. 巻 1
2. 論文標題 政治教育について考える：極右ポピュリズム、民主主義、教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神田靖子、名嶋義直編『ポピュリズムに対抗する民主主義教育、(明石書店)』	6. 最初と最後の頁 199 -235
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千葉眞	4. 巻 1160
2. 論文標題 南原繁における「宗教と政治」：ナチズム批判と価値並行論を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 51-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 苅部直	4. 巻 1
2. 論文標題 少年使節の旅 - - 山崎正和、四十歳の出発	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 別冊アステイオン それぞれの山崎正和	6. 最初と最後の頁 26-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇野重規	4. 巻 16
2. 論文標題 松本礼二・丸山眞男・トクヴィル	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 比較文化 (丸山眞男記念比較思想研究センター)	6. 最初と最後の頁 30-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇野重規	4. 巻 698
2. 論文標題 危機を克服するのはいかなる国家、いかなる社会か	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 14-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇野重規	4. 巻 1
2. 論文標題 危機において政治にできること、なすべきこと - 釜石の未来図とその責任	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東大社研・中村尚史・玄田有史編『地域の危機・釜石の対応：多層化する構造』、東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 41-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇野重規	4. 巻 1
2. 論文標題 コロナ危機、民主主義、そして世界的連帯	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 筑摩書房編『コロナ後の世界 - いま、この地点から考える』	6. 最初と最後の頁 142-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇野重規	4. 巻 II
2. 論文標題 日本における成熟社会論の知的起源	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 年報政治学2019-II	6. 最初と最後の頁 143-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇野重規	4. 巻 上
2. 論文標題 政治思想史における危機対応 - 古代ギリシアから現代まで	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 危機対応の社会科学・上	6. 最初と最後の頁 29-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千野貴裕	4. 巻 46(2)
2. 論文標題 Gramsci's critique of Croce on the Catholic Church	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 History of European Ideas	6. 最初と最後の頁 175-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/01916599.2019.1653352	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 木部尚志	4. 巻 0
2. 論文標題 Civilization, Morality, and Pluralism: A Straussian Perspective on Japanese Modernity	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J. Kwak and S. Park (eds.), Leo Strauss in Northeast Asia	6. 最初と最後の頁 164-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 千葉 眞	4. 巻 0
2. 論文標題 深瀬忠一の人と信仰・学問	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 稲正樹・中村睦男・水島朝穂編『平和憲法とともに 深瀬忠一の人と学問』	6. 最初と最後の頁 310-326
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 千葉眞
2. 発表標題 「拙著『資本主義・デモクラシー・エコロジー』へのコメントに応答する」
3. 学会等名 科研研究会（JSPS科研費補助金「資本主義と民主主義の両立（不）可能性」研究代表者田村哲樹） 合評会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 木部尚志
2. 発表標題 “The Shackles of Universal History and the Road Not Taken: ‘Ambivalent Possibilities’ in Maruyama Masao’s Thought”
3. 学会等名 the Routledge Series of Political Theories in East Asian Context International Symposium 2022: Modernities in Northeast Asian Contexts（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takashi Kibe
2. 発表標題 The Shackles of Universal History and the Road Not Taken: 'Ambivalent Possibilities' in Maruyama Masao's Thought
3. 学会等名 International Symposium 2022: "Modernities in Northeast Asian Contexts," at Sun Yat-sen University (online)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takashi Kibe
2. 発表標題 Diversitaet und Politik in Japan: Gender, Sexualitaet und Ethnizitaet
3. 学会等名 Deutsch-Japanische Studiengruppesponsored by Werner-Reimers-Stiftung Bad Homburg, March 11, 2020 (video conference)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 千葉眞
2. 発表標題 近代西洋の光と影: テイラーの世俗化論から見えてくるもの
3. 学会等名 国際基督教大学キリスト教と文化研究所主催シンポジウム「近代とキリスト教: チャールズ・テイラー『世俗の時代』」(2021年2月20日)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇野重規
2. 発表標題 プラグマティズムは反知性主義か
3. 学会等名 政治思想学会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宇野重規
2. 発表標題 計画・偶発・未知との出会い - 今改めて自律とキャリアデザインを考える
3. 学会等名 キャリアデザイン学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木部尚志
2. 発表標題 Diversitaet und Politik in Japan: Gender, Sexualitaet und Ethnizitaet
3. 学会等名 “ Deutsch-Japanische Studiengruppe ” sponsored by Werner-Reimers-Stiftung Bad Homburg, March 11, 2020 (video conference) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 千葉 眞
2. 発表標題 アーレントとヴィラとの対話ーソクラテス的シティズンシップについて
3. 学会等名 日本アーレント研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 宇野重規	4. 発行年 2023年
2. 出版社 中央公論社	5. 総ページ数 288
3. 書名 日本の保守とリベラル：思考の座標軸を立て直す	

1. 著者名 宇野重規	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 256
3. 書名 近代日本の「知」を考える。：西と東との往来	

1. 著者名 苅部直	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ペリかん社	5. 総ページ数 320
3. 書名 日本思想史の現在と未来ー対立と調和	

1. 著者名 宇野重規	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大和書房	5. 総ページ数 277
3. 書名 自分で始めた人たち：社会を変える新しい民主主義	

1. 著者名 苅部直	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 718
3. 書名 日本思想史事典	

1. 著者名 苅部直	4. 発行年 2020年
2. 出版社 千倉書房	5. 総ページ数 376
3. 書名 基点としての戦後：政治思想史と現代	

1. 著者名 木部尚志（共編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 214
3. 書名 Religion and Nationalism in Asia	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	千葉 眞 (Chiba Shin) (10171943)	国際基督教大学・教養学部・名誉教授 (32615)	
研究分担者	苅部 直 (Karube Tadashi) (00261941)	東京大学・大学院法学政治学研究科（法学部）・教授 (12601)	
研究分担者	宇野 重規 (Uno Shigeki) (00292657)	東京大学・社会科学研究所・教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高田 宏史 (Takada Hirofumi) (20513469)	岡山大学・教育学研究科・准教授 (15301)	
研究分担者	千野 貴裕 (Chino Takahiro) (00732637)	早稲田大学・教育・総合科学学術院・准教授 (32689)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関